

加賀野菜 生産拡大へ

若手の新規取組み支援

昨年の北陸新幹線開通にともない、注目が高まっている加賀野菜。JA金沢市（本店⇨金沢市）では、需要に対応するべ

く生産者数と生産量の一層の拡大に注力する。今年度からは「担い手支援室」を設置し、加賀野菜についても若手による新規取組みを支援してい



に菜か
市場野
市賀栗
中央加
中た皮
市し赤
金入「打
ぼ

く。一方、地元や首都圏に向けたPR活動や魅力向上に向けた取組みも強化する。

加賀野菜は1945年以前から、主として金沢で栽培されている野菜をいう。「五郎島金時」「大徳金時」といった「さつまいも」をはじめ、「加賀れんこん」「たけのこ」「加賀太きゅうり」「源助だいこん」「金時草」など15品目がある。市内の2JA

が出荷し、このうちJA金沢市では13品目を出荷する。

同JA管内の加賀野菜生産者（2014年度）は466人、出荷量4379トとともに前年度に

比べ増加しているものの、この5年間では横ばい傾向。品目別の出荷量、生産者数はさつまいも（2171ト、57人）、加賀れんこん（678ト、54人）、たけのこ（692ト、210人）で多く、「せり」（1ト、3人）、「二塚からしな」（0.5ト、4人）などで少なくなっている。

こうした中、「課題は

生産者数と生産量の拡大。とくに生産者数・生産量の少ない品目で伸ばしていきたい」（担い手支援室の武藤昌弘室長）。

加賀野菜は地域の固定種のため栽培が難しいという。そのため新規栽培に

取組む生産者が部会のベテラン生産者に2～3年師事して技術を習得する体制を整える。現在、金沢市がベテラン生産者の栽培のポイントをビデオに収録しており、合わせて活用していく。

一方、金沢市の事業を

「加賀野菜等消費拡大事業」として商店街と連携したフェアや料理教室の開催などを行う。首都圏

へのPRでは、「首都圏加賀野菜等PR強化事業」として量販店でのフ

エアやPRイベントなどを行う。さらに、「野菜ソムリエとの協働による野菜の魅力発信事業」では、9月に東京・銀座でセミナーを開催。また、「金沢食文化魅力向上事業」として、12月に「全国伝統野菜サミット」を開催するほか、食文化に関する講演を行う予定。